

## 安心な農産物を食べていますか？ これからの農産物選びは「土壌」、 SOILマークが安全・おいしい農産物の新指標です！

NPO 法人 生活者のための食の安心協議会では、今までに全くなかった新しい方法で農地の土壌を分析し、生物性豊かな土壌で育てられた農産物に「SOIL マーク」のシールを貼って、安心を求める生活者の農産物選びの目安を提供開始しました。

### ■ 有機野菜、減農薬野菜、無農薬野菜・・・違い、分かりますか？

安全な農産物の需要は、日々高まる一方ですが、その選び方の指標はイマイチ分かりづらいのが現状です。生活者のための食の安心協議会では、「豊かな土壌で育った作物は良い作物である」という分かりやすい目安を設けるために、この度その土壌分析のツールを普及することにしました。美味しく、体に良い農産物を生活者に食べてもらうために精魂込めて土壌づくりをしている農業生産者から、すでに100件を超える依頼を受けています。分析終了後、生物性豊かな土壌を作り上げた結果が出た農業生産者は、出荷時に右の「SOIL」マーク(多様で活発な土壌微生物がいる豊かな土壌で育った作物の客観的な証明となる)を商品に添付します。生活者がそれを目安に商品選択できる仕組みを作っていきます。



### ■ 土壌の豊かさって何？

では、土壌の豊かさが、どう作物に影響するのでしょうか。

今まで豊かな土壌をつくるためには、肥料や酸性・アルカリ性の度合いが適切か(土壌の化学性)、土の硬さや水はけのよさは適切か(土壌の物理性)、といったことに着目することが重要であるとされてきました。しかし、長年の研究から、土の中に住んでいる微生物のバランス(土壌の生物性)についても適切かどうかあわせて検討すべきだということがわかってきました。そこで、(独)農研機構 中央農研 生産支援システム研究チームの横山和成博士が20年近くにわたる研究の成果として実用化されたことを基に、土壌微生物の多様性(いかに様々な種類がいるか)と活性(いかに元気であるか)について調べるのがこの「土壌微生物多様性・活性値」という分析です。

土壌の生物性がバランス良くいて、活発に働いている土は、農産物が育つのに良い環境であり、農薬や化学肥料が乱用されていない、安心安全な土の客観的な証になります。(財)日本土壌協会他との共同研究で、生物性が豊かな土で育った農産物は、そうでない農産物に比較して糖度が高く、ミネラルをはじめとする微量成分に富み、えぐみのもとである硝酸態窒素が農産物に残りにくいことが分かっています。つまり、生物性豊かな土で育った農産物は、おいしい農産物でもあります。

そのテスト方法は、これからのグローバルスタンダードとなりうる簡便、かつ有用な方法です。(国際特許出願中)

生活者は、わかりにくい農産物の安全指標から開放されて、SOIL マークのついた農産物を選ぶことで、安全でおいしいものを食卓に並べることが可能になります。

土壌の豊かさを表す3つの視点

- ・ 化学性  
pH、窒素、リン酸、カリ、ミネラル、腐植など
- ・ 物理性  
粒状、硬さ、水はけ、水持ちなど
- ・ 生物性  
微生物、小動物など



## ■ 世界指標となりうる SOIL マーク。この秋開催の COP10 でも注目！

今後、農産物を購入するときに目印にしたい「SOIL マーク」。

10月愛知県で開催される COP10 でも、生物多様性は、環境問題の根幹テーマになります。

横山博士の研究は、まさにこの生物多様性の身近な問題なのです。本国際会議でも注目を集める発表となります。

COP10の会期中は CBD 市民ネットワークの水田部会のブースで、SOIL マークについてご紹介します。また、10月22日 15:30～17:30 にCBD市民ネット水田の生物多様性フォーラム(小会議室2)で土壌の生物多様性について講演します。さらに COP10 協賛事業として10月23日、24日に徳島県小松島市で小松島市生物多様性農業推進協議会主催により開催される「自然と共生する農業サミット in 小松島」で、横山博士による講演があります。

## ■ おいしい農産物を作るために日々努力している農生産者の皆様へ

野菜・果物・穀物・・・どんな作物であろうと、基本は土づくりにあります。おいしい、栄養価の高い、安心できる農産物を作るために努力されてきた農業生産者の方々がこの主旨に賛同していただき、SOIL マークを続々取得されています。

分析は迅速かつ危険な薬品を一切使用しない地球にやさしい手法で、1サンプル3万円という低コストです。

また、すでに数ある流通に先駆けて、ハイクオリティーな生鮮食品で定評のある「クイーンズ伊勢丹 新宿店」でも Soil マークつきの農産物が発売され、好評を博しました。是非そのすばらしい成果をご賞味ください。

今後、消費者がこのマークのついた農産物を手に取り、更に土作りにこだわった生産農家も増えることで、健康な食卓が日本はもちろんのこと世界に溢れていくこととなります。

※媒体企画などへデータの提供ご協力いたします！

■このリリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください■

NPO 法人 生活者のための食の安心協議会

広報窓口 櫻本直美

電話：03-5282-8018

〒101-8323 東京都千代田区神田小川町 2-10 ADEX ビル

HP <http://www.anshin-shoku.jp> メール [sakura@dgc.co.jp](mailto:sakura@dgc.co.jp)